

令和 5 年 11 月 27日

松阪市議会議長 坂口 秀夫 様

松阪市議会議員 蒼水会

代表 沖 和哉

蒼水会 先進地視察実施報告書



会派視察を実施いたしましたので、下記のとおり報告いたします。

日時 令和 5 年 11 月 13 日(月) 10:00 ~ 12:00

会場 明和町 修正集学校

テーマ 廃校の利活用について

講師 教育委員会事務局 小学校区編成推進室 室長 中瀬 基司 様
教育委員会事務局 小学校区編成推進室 編成推進係 係長 西井 直貴 様
明和町議会 議長 奥山 幸洋 様
明和町議会 副議長 松本 忍 様
リングロー株式会社/おかえり集学校プロジェクト 代表 碓 敏之 様
修正集学校 校長 吉野 日向子 様

参加者 沖 和哉、濱口 高志、深田 龍、野呂 一平、森 遥香

日時 令和 5 年 11 月 13 日(月) 14:00 ~ 15:30

会場 伊勢市立桜浜中学校

テーマ 統廃合と防災の取組みについて

講師 伊勢市立桜浜中学校 校長 大井 一晃 様
伊勢市教育委員会事務局 学校施設整備課 課長 木村 扶美夫 様
伊勢市教育委員会事務局 学校施設整備課 整備統合推進係 係長 山本真里子 様
伊勢市教育委員会事務局 学校施設整備課 整備統合推進係 主幹 平井 留美 様

参加者 沖 和哉、濱口 高志、赤塚 かおり、野呂 一平、森 遥香

1. 廃校の利活用について(明和町:修正集学校)



© <https://shugakko.jp/>

■運営母体

修正集学校を運営するリングロー株式会社(本社:東京都)は、リユースパソコンの生産実績国内1位の会社である。個人への販売とサポートサービスの他、流通・販売店向けの中古 OA・IT 機器の卸売(年間30万台)。一般法人向けサービスでは導入・入れ替え、そして今回の視察内容である、廃校での IT 普及と地域活性「おかえり集学校プロジェクト」を手掛けている。

■おかえり集学校プロジェクトとは

全国各地にある廃校を、人々が集い、つながる IT 交流拠点として再生し、少子高齢化対策や雇用創出を含めた様々な面で持続可能な地域づくりに貢献していく取り組み。

1. お年寄りから子どもまで、IT をより身近なものにする

遠くに住む孫とテレビ電話、スーパーまで行かなくても重い日用品を家まで届けてもらったりと、高齢者の日常生活が豊かになる提案を行う。気軽に IT に触れられるスペースの提供。

2. 雇用創出と地域活性化に貢献する

夏祭り、田植えなど近隣住民と連携した交流イベント、パソコン・スマホ教室の開催。地元就職希望者への雇用活動へ尽力。

3. パソコン相談窓口を全国に開設する

目標は2025年までに各都道府県へ1校ずつ集学校を開校。廃校の再活用に悩む地方自治体と連携しプロジェクトを進めている。プロジェクトが進むと、日本各地に IT 相談窓口が開設され、どこに住んでいても困りごとが解決できる環境作りが可能となる。現在全国に18校。

■修正集学校の現状

本年10月1日に集学校として開校したばかり。開校式では飲食ブースやIT機器のジャンク市、子どもの遊具やワークショップなど、幅広い層が集えるイベントを開催。

毎水曜日にはプログラミング教室、平日は近隣住民がスマホ教室に気軽に訪れている。

また、新たな取組として家庭の畑で獲れすぎた野菜や不要なものを譲り合う教室市も開催し、町民の新たなコミュニティスペースとして賑わっているようだ。



【質疑応答】

(1)明和町の選定理由(まずは各都道府県に1校の設置、ゆくゆくは各4~5校の設置を目指しているとあるが、選定の基準は?)

A:ハード面では新耐震基準のクリア、施設が老朽化していないか、僻地は避ける。ソフト面では、地域住民の学校に対する想い入れの強さ。(運営後、地域との関係性の構築が行いやすい)自治体職員へのヒアリング、住民説明会での区長、地元代表の感触。全国の廃校情報の収集は、廃校活用コンサルタントや、文科省サイト「みんなの廃校プロジェクト」掲載校から行っている。

(2)運営上での課題と展望(地域からの声など)

A:学校周辺以外の住民との関わり増加を目指したい。認知度、利用者増加を図っている。

(3)廃校活用に向けての動きは?

A:昨年度末(令和5年3月末)まで学校が稼働していたので、間を空けずに集学校開校となった。令和3年度前半に廃校決定、後半に新校区の割振りついて話し合いを始め、年度末に明星・斎宮校区に分けることが確定、令和4年に通学路についての話し合いがもたれ、跡地活用の公募は令和4年に開始した。

(4)行政とリングロー株式会社はどのように連携をとっているか?

A:公平性の観点を踏まえ財政面では難しいが、できる限りの人的支援を行なっている。

(5)各集学校にコンセプトがあるが、修正集学校のコンセプトとそこに込められた想いは？

A:「AI(愛)と文化」。斎宮や藍染め等の地域の古き良き歴史、文化とテクノロジーとの融合。

(6)「おかえり集学校プロジェクト」7年を振り返りどのように分析するか。

A:最初は前例が無く、自治体への入り込みに苦戦したが、現在は成功例の積み上げと口コミにより新しい自治体へも介入しやすくなってきた。活動する中で、細かな人的ミスはあっても大きな問題は起きていない。



(7)高額の利益を生む仕組みではないと理解するが、社員 1~2名の常駐、施設の運営費用をどのように捻出しているのか？また、どれくらいのマーケットがあれば事業として成り立つか。

A:人件費は空き教室の施設使用料、デジタルデバイド対策事業・eスポーツ事業・プログラミング教室等の受託業務。施設維持費は庁舎や市営、町営病院施設の PC の入れ替え業務。また、近隣市町村への波及効果から、収益を上げている。5000 人規模の町であれば、近隣を含め 2 万人規模のマーケットとなれば充分事業として成り立つ。企業誘致途上の地域は介入し易い。

(8)リングロー(株)にとって、地域活性の意義

A:地元企業や地域住民が地域活性に取り組む「きっかけ作り」である。

(9)無償の賃借契約をしているが、今後の修繕はどのように行うか。

A:小さな修繕などはリングロー(株)が負担。大規模な修繕に関しては、契約書の中で都度、両者で話し合うとなっている。

(10)ハードが残る事で施設維持コストが残るが、町としてのメリットは？

A:【明和町側】100～150万円の施設維持費の負担減がある。町全体のDX推進の観点において、期待している。(マイナポイントの手続き窓口の対応等)

【リングロー(株)】町民とのパイプ役を担っている。又、全国の自治体の教育場面でのDX担当やICT支援員不足、役場のDXの支援ができる。

【吉野校長】できないと思いでいたものができる、売れないと思っていたものが売れる、人が来ないと思っていた所に人が来る。PCやスマホを使えることはあくまで手段であり、その先にあるやりたい事の具現化の手伝いができる。



2. 統廃合と防災の取組みについて(伊勢市:桜浜中学校)



▲桜浜中学校の全景

■統合の経過

少子化の進行による学校の小規模化に伴う教育課題を解決し、子どもたちにとってより望ましい教育環境を整備するため、小中学校の適正規模化・適正配置の取組が進められた。

豊浜地区・北浜地区においては、平成24年5月以降、46回に及ぶ地域や保護者への説明会が開かれ、各地区での統合説明会を開催し、豊浜中学校・北浜中学校統合準備会が設置され、平成31年4月「桜浜中学校」として開校となった。

■学校の特徴

- ・地域の課題である津波対策として上層階に緊急避難場所・避難所を設定
- ・避難時の交流スペースにもなる多目的ホール(3階)を整備
- ・伊勢市津波ハザードマップによると、最大浸水深が2.3mとなるため2階の床高は4.5m
- ・2階以上に教室・職員室・体育館・多目的ホールを配置、1階に特別教室を配置
- ・地震時には外部階段を利用して2階、3階に避難可能
- ・津波災害を考慮した学校を新たな土地に建設した初の事例



■防災機能

①津波避難階段と鍵ボックスの設置

②エネルギーと水の確保

- ・浸水対策として、電気回路を1階・2階・3階で分けている
- ・ディーゼルエンジンによる非常用発電設備(105kVA)を設置(連続72時間使用可能)
- ・消化水槽(24t)と受水槽(16t)を2階に設置
- ・調理室のLPガスバルクシステムの非常用発電でガスや電気が止まっても煮炊き可能
- ・屋上に太陽光発電設備(20kW)を設置

③備蓄倉庫は避難生活時に効率的な導線として、多目的ホールに隣接

④校舎内を通らず外階段から直接アクセスできる多目的ホール(R1台風時、避難所として開設)

■学校教育の早期再開を見据えた学校施設の利用計画

①避難エリアと教育エリアを分離した施設利用計画

- ・2階を生徒、3階を避難者が利用することを想定し、避難エリアと教育エリアに分けており、教育の早期再開の面から、避難の期間は1週間から3週間程度を想定

②避難所運営・地域には自治会等のメンバーを中心とした自主防災組織が設置

③避難動線及び物資搬入動線

- ・避難所となる体育館へは外部の避難階段やエレベーター等を使用して避難
- ・物資の仕分けの場と他の動線を分離した配置

【質疑応答】

(1) 特別支援教育の推進の状況はどうか？

A:令和5年時点1クラス。1時間目は自立活動(生活を自立させる活動、個別の課題解決の時間)。玉城わかば学園から定期的にアドバイスをもらっている。

(2) 統合の道のりについて(統合準備会や地域との話し合い/場所、校名選定に至るまで等)、また地域の反対意見などは？

A:事細かに丁寧に地元説明会を行った。平成22年基本構想策定、平成24年5月から計46回の説明会開催、12月には統合両地区で統合説明会開催。第1回～25回まで統合の議論を行なった。特に、細かい単位(PTA、各自治体)での説明会開催に注力した。

東日本大震災による地域の防災拠点設置の機運、少人数のため部活動を両地区合同で行なわざるを得なかった状況などが後押しし、統廃合に対しては前向きに進むことができた。



▲3階へ向かう2階ロビー兼図書室

(3) 災害避難所としての活用方法(災害時の教育の早期再開と、避難所生活エリアの両立)

A:多目的ホール700平米(小さい学校の体育館くらい)と体育館を災害時の避難所として活用を想定している。双方とも外階段から出入り口に繋がっている為、教育現場と導線が分かれている。また、大規模地震以外にも大雨/暴風警報発令時に多目的ホールを開放している。学校エリアに入ると防犯システムが鳴る。

(4) 沿岸地域に新設するにあたり、安全の担保について

A:津波浸水区域に建設するにあたり、危機管理課と調整し、津波浸水ラインより2m余裕を持たせた4.5mに2階を設置。

(5) 学校独自の防災教育や地域と学校の防災訓練の内容

A:まち協との防災訓練時は部活動を休みにしてほしいという申し出があった。校区内にまち協が4つあり、防災訓練は小学校区で行っている

【所感】

■沖:

<明和町>集学校というコンセプトと地域に根差した運営は、純粹に好感が持てた。企業の地方サテライトとしての性格を持ちつつ、地域住民のためのコミュニティセンターとして機能している姿は、きらびやかな再構築ではないとしても、廃校活用のひとつの解のように感じた。ただ、集学校としては収入の上がるスキームではないため、持続可能性については疑問は残る。企業の社会貢献性だけでは疲弊してしまうため、シェアオフィスとしての展開への行政支援が必要なのではと思う。

<伊勢市>桜浜中学校はインダストリアルデザインとして美しく、通学することが誇らしく、また嬉しくなるような学校だった。壮観な外観や機能美の内装だけでなく、機能面でも子ども達がいかに過ごしやすいかを考えつくされていた。また、住民開放する際に利用されるエリアには、オストメイトも完備した多目的トイレもあり、痒い所に手が届く学校施設であった。古いものを修繕しながら何とかして延命し活用することも大事ではあるが、今の時代や学びの形に合わせた新たな施設への転換は、生きた投資であろうと思う。

■濱口:

<明和町>跡地利用を請け負っているリングロウのビジネスモデルは衝撃的だった。パソコン教室で信用を得て、行政関係のパソコン入れ替え時の買取り・販売で利益を上げるとは、まさしく中小企業によるニッチ市場の開拓だと感心した。

<伊勢市>小学校の統合方法として、五十鈴中学校区内の 3 小学校を統合して校舎は五十鈴中学校を使い、五十鈴中学は倉田山中学に統合するという方法には目から鱗の思いであった。松阪市においても小学校の統廃合は近々必要になるが、効率的で住民の賛同が得られる手法を期待する。



▲バリアフリーの2階教室風景



▲多目的ホール

■深田:

<明和町>全国で廃校になった学校を活用して、世代に関係なく人が集まれる場所づくりをしている取り組みを学んだ。松阪市には地区市民センターがあり、それをコミュニティセンター化していく取り組みと機能的には類似しているかと思う。違う点とすれば、民間企業が行うが故に、経済性やサービス性が高いという点だった。この視点から指定管理のコミセン化をした地区にとっては良い事例になるのではないかと考える。地域拠点のあり方について新しい視点を学び取れた機会となった。

■赤塚:

<伊勢市>2つの中学校を統合させるには、各地区計 46 回の説明会を実施した。その内容は統合準備だよりとして発行、保護者や地域住民の混乱のない様になっている。災害時は、地域の避難場所、また地域交流として利用される施設であるため、学校機能との場所を区切るなど、防犯対策や

生徒の個人情報の取扱いにも厳重な管理をしていた。地域の防災活動に生徒が参加できれば活きた防災教育ができると思った。最後に、海風が強く、田園の真ん中に建つ学校は通学するのに足腰が鍛えられるなど感じた。

■野呂：

<明和町>「地方こそ IT を」集学校のコンセプトである。行政の喫緊の課題である DX と廃校活用を見事にマッチングさせ事業化できている。集学校をプラットフォームとして活用し、地域進出を考えている企業の仲介、地域や市町の IT 関連の受託業務もおこなうなど、企業活動には目を見張るが、コミュニティセンター運営の外部委託の一助になるのか、継続的な活性化につながるのかに至っては一考が必要である。

<伊勢市>学校統合と一時避難所の建設。その目的のための準備段階からの丁寧な地域説明と、機能性を完備した学校施設は素晴らしかった。また、伊勢市内におけるその他の学校の統廃合も、効果的におこなわれていることをうかがった。松阪市においても、一時避難所としての学校施設の役割を意識した適切な学校の統廃合を、キチンとした住民理解のもとおこなわれることを期待する。

■森：

<明和町>廃校となってしまう学校の地域は少子高齢化がより進んでいる地域であり、デジタル社会へ苦手意識を持つ方が多い傾向にある。その地域において IT 企業が IT、ないし ICT サポートによって地域活性の風を吹き込むという逆転の発想に気持ちよさを感じた。各集学校に配置される「校長先生(リングロー社社員)」により、それぞれの地域の魅力を引き出した活動がなされている。修正集学校の吉野校長が今後どのように修正集学校を地域の方と創り上げていくのが非常に楽しみに感じた。引き続き、ポジティブな意味で動向に注目していきたい。

<伊勢市>我が地元(松ヶ崎地区)も統廃合の話があがっている事と、同じく海風を感じる沿岸地域である。松阪全体で見ても統廃合候補となっている学校があるが、地域住民・在校生・卒業生・保護者といった、あらゆる立場でその学校に携わる方たちの不安を少しでも取り除けるような丁寧な話合いの大切さを桜浜中学での視察で感じた。また、防災の観点からも、特に教育の早期再開ができるような導線設置、物資の仕分けの為の導線設置などの学びが大きかった。



▲ 3階からの海側風景



▲ 自家発電機能のある調理室